# 科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号: 3 2 6 6 1 研究種目: 基盤研究(C) 研究期間: 2011 ~ 2013

課題番号: 23593145

研究課題名(和文)大学院におけるOSCEを用いた専門看護師の看護実践能力評価プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of nursing practice ability evaluation program certified nurse specialis t with OSCE in graduate school

#### 研究代表者

渕本 雅昭 (FUCHIMOTO, Masaaki)

東邦大学・看護学部・非常勤研究生

研究者番号:00452996

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文):大学院におけるOSCEを用いた急性・重症患者看護専門看護師(以下,CNS)の看護実践能力評価プログラムの開発を目的に,現在わが国のCNS教育課程を持つ看護系大学院における看護技術教育の調査と,CNSが考える高度看護実践とは何かを明らかにすべくグループフォーカスインタビューを行った.その結果,大学院における看護技術教育の内容や評価は大学院によって異なっていた.また,CNSが考える高度看護実践能力は27のサブカテゴリーと,9つのカテゴリーが抽出された.今後は,抽出されたカテゴリーの妥当性を再確認しながら,高度な看護実践能力を客観的に評価可能なプラグラムの開発を検討して行きたい.

研究成果の概要(英文): The purpose of this study was development of ability for nursing practice evaluati on program of Critical care CNS using the OSCE in the graduate school. At first investigated the nursing t echnical education in the nursing system graduate school with CNS curriculum. Next, performed a group focu s interview in order to clarify something with the nursing practice of the CNS. As a result, the contents and the evaluation of nursing technical education in the graduate school varied according to there. In fut ure, want to examine development of the program that is evaluable with nursing practice ability objectively while reconfirming the validity of an extracted category.

研究分野: 医歯薬学

科研費の分科・細目: 看護学・基礎看護学

キーワード: 急性・重症患者看護専門看護師 看護実践能力 OSCE

#### 1.研究開始当初の背景

日本看護協会が定める専門看護師(以 下.CNS)は、 実践:個人・家族または集団 への卓越した看護実践、 相談:看護職種等 へのコンサルテーション、 教育:看護職者 に対する専門分野の教育的機能、 調整:保 健医療福祉チームへのコーディネート、 究:専門的知識・技術の向上および開発をは かるための実践の場における研究活動. 理調整:個人・家族または集団の権利を守る ための倫理的問題や葛藤の解決という6つ の役割を担っている. つまり CNS は,極めて困 難で複雑な健康問題を抱えた人,家族,地域 等に対してより質の高い看護を提供するた めの知識や技術を備えた特定の専門看護分 野において卓越した看護実践能力を有する 看護師である.しかし.これまでの CNS 教育課 程で行われている実習は、期間に限りがある ことや他施設での実習における実習生の責 任の所在が壁となり,臨地実習で経験できる 看護技術の範囲や機会が限定される現状で は,統合した実践能力の獲得には限界がある と考えられる.また,急性・重症患者看護 CNS の専門性とは何か,高度な実践力とは何かを 示す先行文献は見当たらない.

そこで,大学院生がこれまでの看護経験と 大学院 CNS 教育課程での演習や実習で習得し た看護実践能力を総合的に評価するために. 医学・医療系の教育で臨床技能の適正評価に 有効であるとされている OSCE を用いた看護 実践能力評価プログラムの開発が必要と考 えた.OSCE は, Harden らが 1975 年に紹介した のを契機に,現在では医学部基礎教育に導入 されているが,看護基礎教育では,基礎看護 領域や救急看護場面での実施報告,看護技術 試験に模擬患者(SP)を活用した報告が散見 されるが,現時点では研究報告はまだ少なく, 看護基礎教育においても試行錯誤の段階に あると言える、また、日本における大学院 CNS 教育課程で OSCE を導入している大学院は皆 無である.

# 2. 研究の目的

大学院専門看護師教育課程において高度な看護実践能力の総合的な評価に向け,本研究はクリティカルケア看護領域で必要とする看護技術の中から,急性・重症患者看護専門看護師教育課程で教育・評価すべき看護技術を抽出・選定し,それらの到達度を明確にした客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination;以下,OSCEとする)による急性・重症患者看護専門看護師実践能力評価プログラムを開発するための基盤作りを目的とする.

#### 3.研究の方法

研究は,看護系大学院教育において OSCE を 用いた評価プログラムを開発してゆく介入 型である.本研究は,全国看護系大学院 CNS コ ースのカリキュラムや,救急看護学やクリテ ィカルケア看護学書籍で提示されている看護技術項目を参考に,CNS の到達課題や役割と照合しながら,急性・重症患者看護 CNS 教育課程で教育・評価することが望ましい看護技術項目を抽出・選定し,大学院 CNS コース生の OSCE 看護実践課題を作成する基礎データを集積する.

## (1)大学院教育における看護技術

【対象】国内おける急性・重症患者看護専門 看護師教育課程を持つ看護系大学院で,web ならびにパンフレットなどで公開されてい るシラバスを対象とした.

【方法】データ収集は,web ならびにパンフレットなどで公開されているシラバスより「看護技術」に着目したキーワードを選出した.CNS として明記されている6つの役割,「看護実践」以外の「相談(コンサルテーション)」,「倫理調整」,「調整」,「教育」,「研究」に関するキーワードは除外した.

#### (2)高度な看護実践とは何か

【対象】対象者は、 日本看護協会に急性・ 重症患者看護専門看護師として登録してい る、 現在,臨床で活動している、 専門看護 師として 2 年以上経験しており,便宜的に抽 出し,研究目的に同意を得られた専門看護師 を研究対象者とした.

【方法】データ収集は、グループフォーカスインタビューを実施した、テーマは、インタビューガイドに沿って 養成課程の概要、養成課程における臨床実践能力の評価、 高度な看護実践を行うために必要な臨床実践能力とした、インタビュー内容は研究協力者の同意を得て IC レコーダーに録音した.

【分析方法】録音したインタビュー内容を逐語録にし、文字データとした. 養成課程に 機要, 成課程における臨床実践能力の評価は,類似する内容毎にまとめた. 高度な看護実践を行うために必要な臨床実践能力質的に分析をした.「急性・重症患者看護門看護師の高度な看護実践を行うために必要な看護実践能力」に焦点化し、文脈単位で独出した.それぞれの文脈単位の意味内容の検討し、コード名を付した.コード内容の類似性を共通性に基づき分類し、サブカテゴリーを形成した.

【倫理的配慮】A 大学倫理委員会において承認を得た.研究対象者には文書にて,研究主旨,研究協力の有無や中断に関する自由,匿名性の保護,個人情報の管理に十分留意すること等を説明した.グループフォーカスインタビュー実施微には,再度,口頭で説明し同意書に署名を得た.

## 4. 研究成果

# (1)大学院教育における看護技術

対象は公開されていた 11 の大学院とした. その結果,キーワードとして 13 の看護技術が 選定された.「フィジカルイグザミネーショ

,

ン/ヘルスアセスメント」11 件,「家族ケア /家族支援技術」11 件,「危機介入」11 件, 「呼吸管理,人工呼吸器管理」9 件,「補助循環(大動脈バルーンパンピング,経皮的人工 心肺),補助循環管理中のケア」7 件,「ペインコントロール」7件,「救命救急処置/技術(一次救命処置,二次救命処置法)」5件,「代替療法,補完療法」5 件,「創傷処置,創傷ケア」4 件,「ME 機器管理」3 件,「麻酔管理,全身麻酔時のケア」3 件,「トリアージ」,「せん妄予防ケア」,「透析ケア」各1件であった.

大学院教育で教授されている看護技術の現状を把握する目的に、国内おける急性・重症患者看護専門看護師教育課程を持つら看護技術を選出した。その結果、看護技術を選出した。その結果、看護技術を選出した。その結果、看護技術を選出した。その結果、看護技術を選出した。その結果、有であり、対してもの大学院によって異なってあり、のSCEなどが授業態度、課によって行われており、OSCEならのよいであった。シラバスからを設には限界があり、今後はヒヤリングをならて具体的にどのように看護技術教育がなっているかを調査して行きたい。

## (2)高度な看護実践とは何か

対象者は対象条件に沿った急性・重症患者 看護専門看護師 5 名(CNS 経験年数は平均 4.0 年,看護師経験年数は平均 16.6 年)であった。 [ 養成課程の概要]大学院修士課程に設置 されている CNS コースを修了していた.取得

でれている CNS コースを修了していた.取得単位は26~38単位で,実習単位数は6単位であった.授業は講義・演習・実習の形態であり,授業担当はほぼ看護教員であった.高度な看護実践の基盤となる「形態機能学」,「臨床薬理学」,「疾病治療学」,「フィジカルアセスメント/ヘルスアセスメント」は,大学院によって異なり,選択授業である場合が多かった.

[ 成課程における臨床実践能力の評価]授業態度や課題への取り組み方などの態度評価,実習の評価もケースレポートの提出による評価が主であり,看護技術やOSCE など実践力の評価には至っていなかった.

[ 高度な看護実践を行うために必要な臨床実践を行うために必要なな語 | 本調査において CNS が高度は九] 本調査において CNS が高度能力 | 本調査において CNS が高度能力 | 本調査に必要な臨床実践を行うために必要な協力 | 本調査 に必要ないでは、110 コード、27 のサブカテゴリーが抽出された.「聴診器ー」の5 器一つ5 器一つ5 器一つ5 器一つ5 2 までは、110 コード、27 のサブカテゴリーが強力」、「現立を関係を表しているである。「一般では、10 を見いるでは、10 を見

て推論できる力』、「理論やエビデンスを活 用し論理的思考に基づいた実践力」、「看護 実践を振り返り検証していく力」などから 『理論やエビデンスを活用し論理的に考え 看護実践をモデル化する力』、「倫理的問題 を見いだし解決する力」、「意思決定を支援 する力」などから『倫理的な現象に対する問 題解決や意思決定を支える力』、「効果的な 看護実践をするための看護提供システムの 改善や構築する力」、「組織や、チームスタッ フに影響を与えられる力」から『看護提供シ ステムの改善や構築する力』、「組織や多職 種と協働できる力」、「専門家やリソースパ ーソンを活用できる力」などから『問題解決 に向けて多職種や専門家などのリソースを 活用できる力』,「看護実践を通して教育視 点でチームを育もうとする力」、「スタッフ の看護実践を支援する実践力」などから『ク リティカルな状況下においてチームを牽引 するリーダーシップ力』,「組織や多職種と の協働関係作りの調整力と交渉力」.「対人 関係・コミュニケーション力」から『調整力・ 交渉力・コミュニケーション力』が抽出され た (表 1: 急性・重症患者看護専門看護師が 高度な看護実践を行うために必要な能力の カテゴリー).

CNS が考える高度看護実践とは何かを抽出することを目的に,グループフォーカスインタビューを行った.養成課程の教育内容や実践能力評価は履修した大学院の教育を看護教員に委ねられている.高度な看護実践を行うために必要な能力は,論理的思考や実践評価の可視化などが挙げられた.また,問題解決に向けてチームの調整力,交渉力といったカテゴリーも抽出され急性期医療における多職種協働を行っていくことも高度な看護実践の1つとして抽出された.

表 1

	ヤプカナゴソー	リード (一部条件)
<b>利用のフィジスルイグサミキーションと記録にプルスメントする</b> か	アルスメントを発揮におかり下すく記述・数例である力	<b>※分の業長が観音的なぶかりですく伝えられる</b>
		<b>自分が何をサッているの何を考えているか、先に方にをかているかを発展に言かることが大手</b>
		美味能力にはアセスメント報力とそれを誘導に信える能力が大事
		エピアンスを実施につなげられるかステックへ異性菌を示す
	MBR つりりみに使いこなせる力	<b>発起ーツで表だする</b>
	589 FB(2)	也はC 物事の伊養で重要が全をこれでわばならない
		CVE-CARGERFE AS HERRETORN BROAD
クリティカルのが説は、おける <b>研除で収集</b> もが説や作業を配分するカ	機能で高額の状況や機能と介入し続けてきる実施力	<b>を終て着りが楽してうなな現象とか</b> 似である
	AND THE STATE OF T	● 単独 (基本の 単本を マニクリング レクイムリー とか入てきる
	<b>取られた発展で発展しなどもばなるない悪機能化力</b>	SHHOOTERENCE ERRESTAL
	Motorwish Company of the Company of	BURDANHOOT THOU A MARTA
<b>円根のできる時後で下来されるる事例に確立し位置を担って意味できる</b> 力	ない様形である目のカ	ECUMECTECKAN TRANSPORTATION AND A CONSTRU
可能でする解析であるから参加値が出来ができない。	<b>広い機能で売る値に力</b>	とこの様くてとことが、できるのかも様式を参加的に変え、その方を表だ 自分を集性の様式はではたく様式を構造を終っ
		<b>自分の得意分野など向かの際も伝わないを</b>
		先を提出低い機関を持つ
		ICUNTYはなく業後性質を構造器など大のステージを含て電機をしていく
	気を見着なられる感染する力	すぐに火を防した行くのではなく、火を割すルートがどうあって苦し力や子の終土を養をイメージできる
	Tarris Common Co	どこと目的したと物質が抱むのか、どのように動いたとうステムが変わるかを含える
	#RRM#9Rtonen	<b>製造的機能を発えながら開発する</b>
	英雄の他帯や野狐を可視化できる力	<b>見えおくいものを見えやすい市としなければならない</b>
		研究で観光を近じやとし再換を折として指す
		HMOTHARY SARRY SPACEOUT - F- BOOT
		■最高級のなどの連携をサラーディネーション、表示などの機能が入っており、それをどのように切り口として可能をできる
	<b>東京</b> 会において報告的におかりもつけていく意識力	RED STORT THERES WERE THE C.L.
	AMOUNT WALL BROOK STORY OF CALL SORY)	<b>製剤的に基めても、最終的には影響するケックに基立できる</b>
		MMML SERVINGO, COLYPTICATES
		■単のCOLの単大部に関わせるよう。 最後のみなり可能と関係すべきか、 ごこへアクションを担こすべきか考える
CONTRACTOR	理器やエピテンスを采用に整理的影響に基づいた実践力	利ごってい <b>4同様</b> が何なのか、 <b>論</b> を例に考える
		<b>考えたも今んだので報道的に実施する</b>
	<b>意味用は生成り近り他駆していく</b> か	表現した開発を行かませた。 単元集本上が工行くことが発展
	現象では水準を注意的く声格できるか	今までサッてきた機能と今下っている機能の動いを考える
<b>公司</b> 的の用金公司する用 <b>物</b> 的で意思的とセルス あり	<b>高</b> 利はおける保証的の問題を見除く力	<b>電視内装を出して保存的</b> なことが関かを考える
		<b>の利用でいる機能を開催的に関係する</b>
	在後の開発を使いてしませてもた	<b>東山佐州県も分工佐州の原来が</b> (水本こ)。
	REPRESENTAN	高級に参加の機能で乗用をするしたければならない。
		保険的プレンマと似く登場的の大変をする
<b>意義</b> 意気システムの企動や情報するカ	<b>他最初の管理的技をするための管理学の</b> と3万人の必要で確認する力	より良い事務を表現するための事務を含むステムを改善する。 むしくご練事する
	EMPS-A X5-21885A1ANAS	# DO MANTES CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF THE PARTY OF TH
	EMV7-A A7972 PERSAGRAS	みんりを参考な人でどうヤッで用りに要慮を与えるか
		最高にどれだけ物帯を与えられるか
<b>開発度対応内付で非確定を</b> でいましてのフソースを経済できるか	<b>印献や手 整理と 日報 でボ 4</b> 次	製造へのキゴシェーションヤアームの作り力が大事
		テームが上手く機能しているか言かてニケツングし、有機的な最初かける
		みんながジオコフょうにwinainの競手のりを心がけている
	<b>単門家サリソースパーソンを当用できる力</b>	他の個門を入場開する
		HICKSTON: KRT 4
	<b>意味と中央員との信仰できる</b> 力	<b>株式業務から大学教育へ会議して行く必要がある</b>
		MPROMOLYMBONS
クリティカルの研究でにおいてナームを乗引するソーデーシップル	<b>意理高級を</b> 遣して表音的構成でアームを含らうとするか	チーム生命の管理の質の向上を行って行く
	XP+20##RASANTARWA	理論や根拠をどのように向も問題するだけではなく、ステッフとも表現であるようま置すること
	ATT TO MENUTARY AND	**************************************
	FMTXP-790@fLTS016100AHD	表面のみならずスタッフヤ製造に表現してもらまる
	SMANA AND SMITT OF THE TANKYOOD	
		アームの機能を得てアームを毎日して行く
	P	用りに関わてもらえるような管理製造
	リーザーシップカ	<b>気候的にリーダーシップを発揮する</b>
		<b>自分が確認にどうヤッて観路のか</b>
<b>要要力・支援力・コミュニケーションカ</b>	影響や地震整人の協議関係からの開発力と交換力	
要更カ・女体カ・コミュニケーションカ	記載や世間関える信息関係からの関数カル交換力	<b>お々な専門家とアィスカッションし信頼して行く</b>
要要力・支持力・コミュニケーションカ	影響や被撃撃上の信息関係からの関数力上支援力	市中心専門家とアイスカッションと整備して行く 仮能と機能する利、スタッフ等わぞれと声が変えて対応している。
要要力・食業力・コミュニケーションカ	会議で出版権人の信息関係をうる関係力と交換力	英級と機能する時、スタッフそれぞれに声を変えて対応している
要要か・皮膚カ・コミュニケーションカ		変数と <b>実施する</b> 別、スタッフやわせれた声を変えてお応している 人によって表現するた法を表えている
要要力・支持カ・コル ムニケーションカ	を属する場合との最初を含むの機力を支持力 対人関係・コミュニケーションカ	英級と機能する時、スタッフそれぞれに声を変えて対応している

# (3)大学院における急性・重症患者看護専門 看護師の OSCE

大学院における急性・重症患者看護専門 看護師の OSCE は、本研究で抽出された大学 院教育における看護技術をもとに,急性・重症患者看護専門看護師が高度な看護実践を行うために必要な9つの能力を組あせた評価指標が必要と考える.今後は,抽出されたカテゴリーの妥当性を再確認しながら,高度な看護実践能力を客観的に評価可能なプラグラムの開発を検討して行きたい.

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 1 件) <u>渕本雅昭</u>,小児看護におけるシミュレーション教育,小児看護,査読なし、Vol35,No12,2012,pp1664-1667.

[学会発表](計 0 件)

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

渕本 雅昭 (FUCHIMOTO, Masaaki) 東邦大学・看護学部・非常勤研究生 研究者番号:00452996

# (2)研究分担者

中村 惠子(NAKAMURA, Keiko) 札幌市立大学・看護学部・教授 研究者番号:70255412

内田 雅子(UCHIDA, Masako) 札幌市立大学・看護学部・教授 研究者番号:60326494

菅原 美樹 (SUGAWARA, Miki) 札幌市立大学・看護学部・准教授 研究者番号:60452992